

TSUDA TODAY

No. 133

津田塾大学

March 2025



2024年度 卒業式式辞 歴史から学び、未来に向かう

学長 高橋 裕子

ご卒業おめでとうございます。新しい世界に羽ばたかれる皆さんに心からの祝福を申し上げます。皆さんの大学生活は、新型コロナウイルスによるパンデミック、東欧や中東での戦争、トルコ・シリア、そして能登半島での地震など、歴史に刻まれる悲劇が続いた4年間でした。とりわけ入学と同時にコロナ禍の学びに直面した皆さんは、想像もしていなかった困難を経験されたことでしょう。そうした中でも皆さんは新しい学び方や活動の仕方などを工夫しつつ大学生活を全うしました。そのことをたいへん誇りに思います。

さて、皆さんが卒業する2025年は本学が125周年を迎える年でもあり、また、戦後80年という年でもあります。ご存知の通り、昨年、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。世界の状況を踏まえると、平和を実現していくために、今まさに歴史を振り返ることの大切さがあると考えています。

今日は、私が母から聞いたエピソードを、悲惨な話ではありますが、皆さんにお伝えしたいと思います。1945年8月6日、広島県立第二高等女学校の生徒だった母は、校庭での朝礼中に被爆しました。15歳でした。校舎の陰に立っていたため火傷は負いませんでしたが、壊れたガラスが刺さって、友達とガラスを抜き合ったそうです。その後、傷を負っていない生徒達は金輪島という瀬戸内海の島に送られ、その日は一晩中、重傷の被爆者の救援活動に当たりました。火傷を負った人びとの「水をください」という叫び声にも、水は与えないようにという先生からの指示があり、生徒たちは団扇であおぐばかりだったのです。火傷の苦しみに喘ぐ負傷者の中には「死んだら化けて出るぞ!」と生徒たちに叫びながら、海まで這っていき、海の中に飛び込む人もいました。翌日、母は市内に戻り、家族と合流し、その後、学徒動員に出て行方不明になっていた12歳の弟を探し回りましたが、発見することは叶わず、弟が通っていた広島県立第二中学校の帽子についていた校章を拾って遺骨の代わりに家に持ち帰りました。市内で見た光景はまさに地獄絵で、どんな映像も言葉もその地獄絵を表現し尽くすことはできないと私によく話してくれました。



戦後、母は家族を支えるべく得意だった英語を活かして、進駐軍の通訳をしたり、私が中学生の頃にはテキサスに本社がある繊維会社に勤務したり、また、晩年にはカンザス大学に留学中の私を父とともに応援してくれ、母は3か月ほど一緒にグランドキャニオンやボストンなどに旅行したり、精力的に楽しい時間を過ごしました。

皆さんも曽祖父母の方々から戦争体験について伺う機会があったかと思います。2025年は、日本社会が過去80年、戦争の荒廃の只中から始まって、近隣諸国に残した禍根も含めて、さまざまな困難を抱えながらも復興に尽力し、今日に至っている歴史を振り返る年でもあります。

併せて、今、海の向こうで起きているさまざまなことは、実は地続きであると認識しなければなりません。SNSで不確かな情報が瞬時に拡散する世の中に生きている私たちにとって、自分の軸と想像する力で、事実をしっかりと確認して判断できる力量をもつことが、今ほど重要な時はありません。大学で学んだことを活かして社会に貢献してほしいと津田梅子は繰り返しさまざまなところで述べています。そのためには、卒業していく皆さんが新聞や本を読み、深く思考して何が正しいかを判断することが必須です。皆さんはデジタルネイティブであるからこそ、大学を卒業した後もいっそう読書をする時間をもち、歴史から学び、自身の頭で考え、判断する人になっていただきたい。周囲から耳にする情報や目にする雰囲気流されることなく、自律的に行動し、社会に貢献できる、世界の市民として育っていかれることを期待しています。

21世紀の半ばに向かって、皆さんは想定外の困難や挑戦に立ち向かうことがあるでしょう。将来、大学院などへの進学や留学の選択肢も含めて、津田塾で学んだ皆さんには、私たちの先達がそうであったように、さまざまな可能性に向かって力強くそして遅しく未来に向かって前進してほしいと心から願います。



2024年度 卒業・修了（終了）者数

<学部>

学芸学部	9月30日付	3月19日付	合計
英語英文学科	0	211	211
国際関係学科	3	223	226
多文化・国際協力度科	0	62	62
数学科	0	52	52
情報科学科	2	44	46
計	5	592	597
総合政策学部	9月30日付	3月19日付	合計
総合政策学科	5	118	123
計	5	118	123
学部合計	10	710	720

※学部は3月31日付卒業なし

<大学院>

2025年3月17日時点

修士課程	3月19日付	3月31日付	合計	備考
文学研究科	10	0	10	(英語教育研究コース2、英語教育実践研究3、学士・修士5年プログラム1含む)
国際関係学研究科	4	0	4	
理学研究科	12	0	12	(数学専攻5、情報科学専攻7)
計	26	0	26	
後期博士課程	3月19日付	3月31日付	合計	備考
文学研究科	2	0	2	終了2名
国際関係学研究科	0	1	1	終了1名
理学研究科	0	0	0	
計	2	1	3	

※大学院は9月30日付修了なし

2024年度 各賞受賞者

■ 星野あい賞

第2代学長・星野あい先生の寄付を基金として制定された賞。成績優秀な数学科学生に授与。

数学科：川野 真佑 鈴木 涼子

■ 藤田たき賞

第4代学長・藤田たき先生の寄付を基金として制定された賞。優秀な論文（英文）を書いた国際関係学科の学生に授与。

国際関係学科：久野 真弥

■ 石坂泰三賞

元本学理事長・石坂泰三先生の寄付を基金として制定された賞。

英語英文学科：大学院に進学し、かつ成績優秀な学生に授与。

原田 真衣奈 久保 咲喜 小柳 日佳莉

情報科学科：成績優秀な学生に授与。

木戸 彩乃

国際関係学科：優秀な卒業論文を書いた学生に授与。

渋谷 真由 滝川 優里奈

■ 赤松良子賞

本学卒業生で、労働省初代婦人局長として男女雇用機会均等法の制定に尽力された赤松良子氏のご功績をたたえ、優秀な卒業研究プロジェクトを完成させた総合政策学科の学生に授与。

総合政策学科：武藤 胡桃 森田 佳乃子

■ 中根千枝賞

本学卒業生で、女性フィールドワーカーのパイオニアであった中根千枝氏の功績をたたえ、特に優秀なフィールドワーク報告卒業論文を作成した多文化・国際協力度科の学生に授与。

多文化・国際協力度科：谷川 真由 諸星 美和 小野寺 晴

学科主催の論文賞

情報科学科

● 卒業論文最優秀賞

「Visuax:サクソフオーン初心者を対象としたロングトーン練習支援システム」

三和 菜月 木戸 彩乃

● 卒業論文優秀賞

「eラーニングにおける生成AIを利用したユーモア表現に関する研究」

奈良 輪 望

「生成AIを活用した体操女子ゆかの演技構成作成システムの提案」

浅井 遥 甲斐 菜月 三輪 玲奈

「画像認識に対する敵対的攻撃に関する研究」

片野 花音

「自己符号化器を用いたRGB/NIR信号の適応的融合に基づく酸素飽和度推定」

原田 理花

「歩行中の風景画像認識とユーザーの感情に基づいた音楽生成システム」

高田 日奈子

「知的障害児の協同遊びを目指すアプリケーション「かおとんとん」の開発と評価」

須藤 彩

総合政策学科

● 卒業研究プロジェクト奨励賞

「地域間における教育の機会格差の検証

～出身地の違いはライフチャンスにどのような影響を与えるのか～」

原田 亜実

「災害時における偽情報拡散の主体とメカニズム～ランダム化比較試験による分析～」

平塚 はな

「児童相談所における虐待相談対応件数の増加～計量分析とヒアリング調査を通して～」

川鍋 萌音

企画展「赤松良子―“均等法の母”の足跡をたどる」を公開中です

3月17日(月)、津田梅子記念交流館山根記念ギャラリーにて、“均等法の母”と呼ばれた、故・赤松良子氏を紹介する企画展が初日を迎えました。

赤松氏は、1929年、洋画家・赤松麟作の末娘として産まれました。幼いころから父のアトリエで遊び、西洋の文化や外国語にたいそう憧れて育ちました。また、近所で見かけた颯爽と歩く職業婦人たちの姿にも感動し、自分も職業婦人として自立して生きるという目標を立てたそうです。

そんな赤松少女にとって、親友のお姉さんの母校の話聞くことが一番の楽しみでした。その“お姉さんの母校”こそ、“津田塾（Tsuda College）”だったのです。

その後、赤松氏は戦後まもない時期に津田塾専門学校、そして東大法学部に学び、労働省に入省して婦人の雇用・労働問題改善にとりくみ、男女平等、とりわけ職場での性別による不平等を是正することを生涯のテーマと定め、「男女雇用機会均等法」制定を実現しましたが、実現までの長い道のりで心身の支えになったのは、“津田”の思い出、そして同窓の先輩・仲間の力でした。

本展では、赤松氏が女性として初めて受章した「旭日大綬章」、父・赤松麟作画伯が描いた肖像画『良子20歳の夏』をはじめ、故人の遺志により本学へ寄贈された貴重な写真や資料を多数ご紹介しています。

本企画展は4月11日(金) まで公開中です。



タイ チュロンコン大学(Chulalongkorn University)および コンケン大学(Kohn Kaen University)と学生交流協定が締結されました

2024年、本学はタイにある2つの大学と協定を結びました。どちらの大学とも授業料相互免除の学生交流協定を含んでおり、年間それぞれ2名の学生の交換が可能となりました。

● チュロンコン大学

チュロンコン大学は、The Times Higher Education Impact Rankingで17位、QS World Ranking in Thailandで1位を獲得した名門国立大学です。タイの首都バンコクに位置する創立1917年のタイで最も古い総合大学で、日本にも多くの協定校があります。2024年6月には、理学部数学・情報科学科のAssistant Professor, Dittaya Wanvarie先生が本学小平キャンパスおよび千駄ヶ谷キャンパスを訪れ、授業見学などを行いました。

大学Webサイト：<https://www.chula.ac.th/en/>



● コンケン大学

コンケン大学は、タイの東北部に位置し、QS World Ranking in Thailandで7位を獲得した、学生数3万人を超えるリサーチ大学です。80を超える日本の大学と協定を結んでおり、本学とも全学協定を締結しました。学生の6割以上、管理職の5割以上が女性であり、理系の学部でも多くの女子学生が学んでいます。

大学Webサイト：<https://www.kku.ac.th/>



交換留学生のFarewell Partyが開催されました

2025年1月21日に、帰国する留学生のためのフェアウェルパーティーを開催しました。今回は、9名の交換留学生が津田塾大学での留学を終えて帰国します。

帰国する交換留学生の所属大学は、淡江大学(台湾)2名、ハノイ国家大学外国語大学(ベトナム)2名、CYセルジー・パリ大学(フランス)2名、ブレーメン応用科学大学(ドイツ)1名、ウエスタンワシントン大学(アメリカ)1名、梨花女子大学(韓国)1名です。

フェアウェルパーティーでは、高橋学長、中井国際センター長からのスピーチ、そして帰国する交換留学生から、日本語や英語で津田塾大学での経験についてのスピーチがありました。



小平市立小平第十五小学校の児童の皆さんが小平キャンパスに来校されました

● 2024年12月6日

自然環境の観察のため、1年生約80名が来校されました。

どんぐりやまつぼっくりなどを拾いながら、紅葉深まるキャンパス内を探索し、たくさんの楽しそうな声が聞かれました。



自然環境の
観察のため、
キャンパス内を探索

● 2025年1月23日

大学見学のため、6年生約70名が来校されました。

津田塾大学や著名な卒業生についてクイズを交えながら紹介した後、4グループに分かれ、図書館や津田梅子資料室、5号館に展示されている「アメリカ留学(津田梅子)」の屏風絵、津田梅子墓所、中庭や本館などをめぐるキャンパスツアーを行い、若い記番号「AA000003AA」の五千円券をはじめ、津田塾ならではの見どころを見学しました。

キャンパスツアー中、
中庭から本館へ向かって



なお、近隣の他の小学校からもご来校をいただいています。

● 10月

小平市立小平第四小学校の児童の皆さん2名(図書館でのお仕事体験のため)

● 11月

小平市立小平第十小学校の児童の皆さん4名(図書館での職場体験のため)

公開授業『教科書の未来を考える－北欧諸国の事例から－』が実施されました

2024年12月17日に、本学国際関係学科の渡邊あや教授、信州大学の林寛平准教授、金沢大学の本所恵准教授による『教科書の未来を考える－北欧諸国の事例から－』と題した公開授業が、公益財団法人教科書研究センターのご協力のもと、「比較教育論(4)」の一環として実施されました。

林准教授と本所准教授からは、スウェーデンの教科書制度、スウェーデンにおけるデジタル教育推進政策の転換、現場での反応などについて、そして、渡邊教授からはスウェーデンとフィンランドの関係性なども交えつつ、フィンランドの教科書制度と近年の動向についての詳しい解説がありました。

本公開授業には、対面のほか、Zoomでも多くの教育関係者やメディア関係者が参加され、北欧諸国における教科書や教材をめぐる状況への、日本国内での関心の高まりが感じられました。



渡邊あや教授



林寛平准教授

渋谷区と連携して地域課題解決に取り組んでいます

本学と渋谷区は「S-SAP（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー）協定」を締結し、地域の社会的課題を解決するためにさまざまな活動に取り組んでいます。

● 地域団体の実態・活動課題の把握と課題解決策の提案

渋谷区では、複合的な生活課題を抱えた住民に対する相談支援体制を構築する一環として、重層的支援体制整備事業を展開しています。「重層的支援」は行政のみならず地域のさまざまな団体の参加協力のもとで展開されており、総合政策学科の2年セミナー（担当：森川美絵教授）では、渋谷区地域共生サポートセンター「結・しづや」にてコミュニティ・マネージャーをしている認定NPO法人サービスグラントと協力し、この事業に関わる地域団体の現状・ニーズを把握する調査の実施、結果の取りまとめ、地域団体の活動課題への解決策の提案を行いました。

2024年度の第2タームと夏期休暇期間には、学生がチームに分かれ、合計15の地域団体ヘインタビューを実施しました。この調査結果をまとめた報告動画を学生自ら作成し、2024年11月に行われた「結・しづや」開設1周年記念イベントでも放映されました。学生たちは1年を通じて苦労しながらも活きいきと、積極的に、課題解決に関する実践的な学びに取り組みました。ITを活用した提案も多く、「総合政策」の学びの強みを体現する機会となりました。

「結・しづや」開設1周年記念イベントでの報告動画放映の様子



● 認知症サポーター養成講座

渋谷区では、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」の養成に取り組んでいます。

第4タームに総合政策学科で開講されている「地域ケア論」（担当：森川美絵教授）の授業内でも、毎年「認知症サポーター養成講座」を実施しています。渋谷区地域包括支援センターの講師から、認知症の症状、支援の方法、接し方について学び、理解を深めました。受講者には、渋谷区認知症サポーターカードが授与されました。

総合政策学科「地域ケア論」授業内での「認知症サポーター養成講座」の様子



アンネのバラと被爆桜、思いをつなぐプレートを設置しました

2024年5月12日、本学小平キャンパスに「アンネのバラ」が植樹されました。このバラは、高大連携協定を結んでいる東京女学館中学校・高等学校から寄贈されたもので、アンネ・フランクの記憶と平和への願いを込めて植えられたものです。植樹に合わせて、このたびアンネのバラの由来や植樹の経緯について説明するプレートが設置されました。

また、2011年6月30日に同キャンパスに植樹された「被爆桜」にも同様のプレートが新たに設置されました。この桜は、広島県の爆心地から2キロ圏内で奇跡的に生き延びた桜の苗木を育てたものです。平和の尊さを伝える活動を続ける安田女子高等学校より、本学学生たちの平和活動への願いを込めて贈られたものであり、戦争の悲惨さや平和の尊さを象徴しています。新たに設置されたプレートには、被爆桜の歴史やその背景が記されています。

これらのプレートの設置を通じて、平和の重要性を広く共有するとともに、本学が未来に向けて平和への願いを発信し続ける場でありたいと考えています。また、アンネのバラと被爆桜を通じて、訪れる人びとが平和について考え、心に刻むきっかけとなることを願っています。

なお、プレートを設置するにあたり、本学卒業生からのご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。



アンネのバラのプレート



被爆桜プレートと被爆桜

2025年1月16日「総合」の授業にて、脚本家・小説家の吉田恵里香様にご講演いただきました

「総合」は、学生有志によるスタッフが教職員の協力のもと企画・運営を担っているユニークな授業です。公開講座なので、受講生以外の学生、教職員、近隣の市民の方も多く参加しています。学生スタッフは、各年度のテーマを設定し、講師を選んで講演の依頼をし、当日の講演の運営を担います。毎回、さまざまな分野で活躍されている方を講師としてお招きしています。この授業の目的の一つは、講演と質疑を通して、身の回り、また世界で起きている事象について、学生自身が主体的かつ自由に考え、「私はどう考えるのか」を見つける場を提供することです。

2024年度のテーマは『学ぶ門には福来る～豊かに生きるヒントを探そう～』でした。受講生が自身の人生を見つめ直し、これからの未来に目を向けてみるきっかけとして「学び」をとりあげました。

最終回の1月16日にはNHK連続テレビ小説『虎に翼』の脚本を執筆された吉田恵里香様にお越しいただき、主人公の真子を通じて伝えなかったことやご自身の経験などから、生きづらさに焦点をあてて講演いただきました。選びたい選択肢が与えられていない、あるいは選ぶことが叶わない立場に置かれている人たちがこの社会に存在していることなどに関して多くの質問が寄せられ、豊かな質疑応答の時間を持つことができました。



創立125周年記念事業募金 ご協力のお願い

2025年に創立125周年を迎える本学は、2024年4月1日から2028年3月31日までの中期計画を策定しました。津田梅子の建学の精神に基づき、今日にいたる伝統を受け継ぎつつ「変革を担う女性」の育成を目指して教育、研究の一層の充実発展を図ります。この実現に向けて、「創立125周年記念事業募金」を開始いたしました。本学の教育研究環境は、これまでも同窓生をはじめとする社会の皆さまのご芳志に支えられて築かれてまいりました。「創立125周年記念事業募金」につきましても、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

記念事業

1. 国際化のさらなる推進事業

- (1) 奨学金等による海外への学生派遣・留学生受入の支援、国際化イベント等実施
- (2) 海外大学院とのデュアルディグリープログラムの実現
- (3) 新寮建設による留学生を含めた学生支援

2. 女性IT人材育成事業

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育の強化
- (2) 理系新学部の特長となる校舎（新2号館）の建設

3. 地域連携活動の強化 ウェルネスの拡充事業

- (1) 生涯教育モデルの実現
- (2) 連携推進センター活動と女性キャリア支援
- (3) ウェルネスの拠点となる施設の建設

寄付金募集要項

1. 寄付金目標額 3億円

2. 募集期間 2024年4月1日から2028年3月31日まで

3. 寄付金の種類

- (1) 個人の寄付金 1口1万円
- (2) 法人の寄付金 1口の金額は特に定めておりません。

4. 申込および払込方法

(1) 金融機関

既に郵便等でお届けしております払込取扱票は、郵便局および銀行で使用できます。この用紙は、「寄付申込書」を兼ねていますので、それ以外の申込手続きは必要ありません。

(2) クレジットカード

インターネットからお申込みができます。詳細は、Webサイト(<https://kifu.fm/tsuda/form.php>)をご参照ください。

・クレジットカード決済でお申込みいただいた寄付金が津田塾大学に入金するまでには申込日から日数を要します。(申込日の翌々月位)

・クレジットカード決済でお申込みいただいたご寄付の領収証の日付は、申込日ではなく、寄付金がクレジットカード会社から津田塾大学に入金された日付となります。そのため、お申込みが11月以降になりますと、領収証の発行日付が翌年になる可能性があり、その場合は寄付金控除も翌年の対象となりますのでご承知おください。11月以降のお申込みで、その年に寄付金控除をご希望の場合は、金融機関からの振込みにより承りますので、経理課まで振込用紙等をご請求ください。

(3) 現金

津田塾大学小平キャンパス経理課窓口にて取扱っています。
窓口での現金取扱時間は、平日9:00～11:15、12:15～15:30です。



5. ご寄付をいただいた皆さまへの 礼遇について

(1) 銘板への掲載

ご寄付を賜りました方々のご芳名を、新2号館内に設置予定である銘板に永く顕彰させていただきます。また、報告書等では、ご芳名および寄付額を公表させていただく予定です。

(2) 記念品の贈呈

創立125周年記念事業募金の寄付の累計額が30万円以上※に到達された方には、返礼品として創立125周年記念事業募金の顕彰用に企画されたオリジナルの「漆塗りボトル」または「漆塗りタンブラー」を贈呈させていただきます。

※2024年4月1日～の累計とさせていただきます。

また、1口以上ご寄付いただいた方にはお礼の品をお送りさせていただきます。

詳細は本学Webサイト
<https://support.tsuda.ac.jp/projects/125th.html>
でお知らせいたします。



寄付金に対する税制上の優遇措置について

● 個人の寄付金に対する税制上の優遇措置 ※法人の寄付金に対する税制上の優遇措置につきましては、右記二次元コードより詳細をご覧ください。

(1) 所得税

寄付者の方が、「所得控除」または「税額控除」のどちらかを選択して確定申告をすることにより、所得税の控除を受けることができます。

所得控除の場合

寄付金額－2,000円を所得から控除

所得控除を行った後に、税率を掛けるため、所得税率が高い方に減税効果が大きくなります。

税額控除の場合

(寄付金額－2,000円)×40%を所得税額から控除(所得税額の25%が限度)

税率に関係なく、税額から直接控除されるため、多くの場合、減税効果が大きくなります。

*寄付金控除が受けられる上限額は、年間総所得金額の40%までです。

(2) 個人住民税

平成20年度税制改正により、自治体が条例で指定している寄付金は、個人住民税の寄付金税額控除が受けられます。津田塾大学への寄付金は、東京都および小平市にお住まいの方に個人住民税の寄付金税額控除が受けられます。

都道府県 東京都 ▶ 東京都主税局課税部課税指導課個人事業税班 Tel. 03-5388-2956 公式サイト <https://www.tax.metro.tokyo.jp/>
市区町村 小平市 ▶ 小平市税務課市民税担当 Tel. 042-346-9522 公式サイト <https://www.city.kodaira.tokyo.jp/>

個人住民税の控除額 都道府県(東京都): (寄付金額－2,000円)×4% 市区町村(小平市): (寄付金額－2,000円)×6%

(3) 寄付金控除の手続き

必要書類

①大学が発行する寄付の領収証 ②寄付金控除に係る証明書(写)

所得控除を受けるための証明書と税額控除を受けるための証明書をお送りしますので、どちらか選択してご使用ください。

手続方法

所得税と個人住民税の両方および所得税のみに寄付金控除を受ける場合は、ご寄付された翌年に所轄税務署で確定申告をしてください。個人住民税のみに寄付金控除を受ける場合は、現在お住まいの都道府県(東京都)・市区町村(小平市)にお問合せください。



寄付者ご芳名 (2024年9月1日から2025年1月31日現在 掲載承諾者のみ)

サポート＜津田スピリット＞募金 創立125周年記念事業募金

青木 謙次郎 様	宇野 小枝実 様	窪田 史 様	添田 麻里 様	西尾 喜代子 様	円山 恵子 様
明石 千津子 様	江田 京子 様	熊谷 祥子 様	田浦 昌子 様	西川 直子 様	水谷 朋子 様
赤松 良子 様	Enei Kumiko 様	熊谷 光子 様	高島 恵美子 様	西出 郁代 様	水沼 勢津子 様
朝日 幸世 様	奥田 洋子 様	倉田 節 様	高砂 郁子 様	西牟田 保代 様	南 千瑛 様
足立 久美子 様	大當 恭子 様	栗原 郁太 様	高津 幸司 様	西山 恒子 様	南塚 直子 様
穴沢 素子 様	大驛 康也 様	栗山 哲郎 様	高橋 加寿子 様	西山 裕子 様	三村 奈七子 様
阿部 尚子 様	大口 康子 様	小出 瑞穂 様	高橋 千絵 様	西山 康子 様	三宅 紀子 様
阿部 光 様	大久保 道子 様	國分 貞子 様	高橋 浩美 様	丹羽 敏雄様・裕子 様	三宅 陽子 様
阿部 始子 様	大島 啓子 様	小坂 雅美 様	高橋 麻里 様	根本 和彦 様	宮澤 聡美 様
荒井 紀子 様	大島 美穂 様	小嶋 倅代 様	高林 輝子 様	野口 妙子 様	宮島 長子 様
有富 祺子 様	太田 秀一郎 様	小島 りき子 様	多加谷 邦子 様	野見山 由利子 様	宮代 芙佐子 様
安藤 菜穂子 様	太田 香 様	小清水 裕子 様	武内 恭子 様	波多野 典子 様	向井 祐介 様
安藤 宏子 様	大津 日出人 様	越山 礼子 様	武田 峯子 様	服部 律子 様	村井 智江子 様
飯野 正子 様	大津 栄子 様	小林 月子 様	田澤 奈津子 様	花村 幸子 様	村瀬 順子 様
井垣 伸子 様	大野 洋子 様	小松 麻子 様	出樋 直子 様	羽場 久美子 様	村田 純子 様
猪狩 優子 様	大橋 節子 様	齊藤 菜美 様	多田 恵子 様	浜 房子 様	村田 美津子 様
池上 嘉彦 様	大平 里子 様	齊藤 治人 様	立石 千明 様	浜田 志保子 様	室生 佐知子 様
池田 優 様	大類 久恵 様	齋藤 道子 様	館内 律子 様	堤 瑩子 様	元木 良子 様
池田 真理子 様	岡崎 洋子 様	三枝 千恵子 様	田中 紘子 様	林 恵子 様	森 眞彦 様
池田 美佐子 様	岡島 閑子 様	栄枝 頼子 様	田中 実穂子 様	林 朋子 様	森 知子 様
池野 玲子 様	岡本 結羽 様	坂上 頼子 様	田中 淑子 様	原口 文子 様	森 麗子 様
生駒 彩 様	岡本 公美 様	酒徳 あきつ 様	田辺 文子 様	板東 久美子 様	森定 奈保子 様
諫山 麻子 様	岡本 稔子 様	佐久間 明子 様	谷口 陽子 様	坂東 眞知子 様	森下 真弓 様
石井 健一 様	小川 ケイ 様	佐久間 徳子 様	谷矢 悠子 様	東 曜子 様	安井 久美子 様
石井 祥子 様	小川 貞子 様	酒向 和子 様	為国 裕子 様	東原 真貴子 様	八十 華世 様
石井 ふみ子 様	小倉 元泰 様	笹形 香織 様	田谷 和子 様	樋口 陽子 様	柳澤 恵子 様
石岡 昌子 様	小栗 満佐子 様	笹田 庸子 様	俵 恭子 様	久松 和子 様	矢野 彩 様
石川 眞紀子 様	桶谷 真由美 様	佐藤 栄次 様	丹治 美知子 様	菱田 治子 様	山口 薫 様
石川 由紀 様	小合 真由美 様	佐藤 暉 様	樗木 真理 様	飛田 明美 様	山下 明子 様
石下 理栄 様	小澤 より子 様	佐藤 恵子 様	千葉 信子 様	檜木 淑子 様	山添 紀子 様
石田 佳那 様	小沢 瑠奈 様	佐野 智子 様	趙 秋織 様	日向寺 裕子 様	山田 悦子 様
石田 美津子 様	越智 京子 様	沢木 美奈 様	辻 雅紀 様	平栗 彰子 様	山田 佳弥子 様
石原 めぐみ 様	小野澤 万紀子 様	汐崎 康子 様	辻本 和紀子 様	平田 雅子 様	山ノ川 実夏 様
板垣 絵里 様	景山 昌 様	塩沢 さ江子 様	津田 薫 様	平田 美和子 様	山本 恵美 様
伊丹 美枝子 様	加古井 淳哉 様	繁村 瑞穂 様	土江 栄子 様	平野 公恵 様	山本 みどり 様
市ヶ谷 洋子 様	笠木 紀美子 様	穴戸 尚子 様	土田 章 様	福井 洋子 様	山本 ゆき 様
市橋 佐和子 様	片桐 暁生 様	柴尾 有希子 様	土屋 博子 様	房野 桂 様	湯浅 瑛 様
市村 美穂 様	片桐 薫 様	柴田 由美子 様	堤 佐喜子 様	藤川 鉄馬 様	譲原 久佳 様
伊藤 喜美子 様	片野 善幸 様	嶋田 耿子 様	築野 富美 様	藤田 郁子 様	横幕 玲子 様
伊東 啓子 様	勝木 満子 様	島田 馨子 様	鶴来谷 智子 様	藤田 操 様	義井 みどり 様
伊藤 美保子 様	加藤 みどり 様	島田 精一 様	鶴田 一恵 様	藤田 レイ子 様	吉岡 博貴 様
伊東 志子 様	門田 進一郎 様	島田 比呂子 様	徳川 静江 様	藤野 早苗 様	吉岡 佳子 様
伊藤 芳子 様	金杉 裕子 様	島藤 昌信 様	戸田 知子 様	藤原 康志 様	吉岡 純子 様
稲田 尚子 様	兜 智美 様	清水 響子 様	豊田 百世 様	古矢 治子 様	吉岡 千恵子 様
井上 尚子 様	神杉 和子 様	清水 萌絵 様	永井 尚子 様	星野 佳津子 様	吉田 桂子 様
井上 真澄 様	亀井 和子 様	白井 圭子 様	長尾 和子 様	星野 容子 様	吉田 千鶴子 様
井上 友紀子 様	亀田 企代江 様	新海 尚子 様	中川 啓子 様	細谷 弥生 様	吉永 秋子 様
茨城 小夜子 様	川崎 和子 様	末岡 豊子 様	中川 まゆみ 様	穂積 和子 様	吉見 富美子 様
今井 正樹 様	川島 尚子 様	杉江 栄美子 様	長坂 留里 様	堀 洋子 様	吉本 淑美 様
今井 安美 様	河野 芳江 様	祐定 美枝子 様	中島 恵子 様	本荘 博美 様	陸川 厚子 様
今田 利子 様	河原 和子 様	鈴木 恵子 様	中平 多恵子 様	本田 典子 様	渡邊 佳余子 様
入野田 節子 様	川辺 敏子 様	鈴木 奈保美 様	仲津 佳子 様	牧野 恵子 様	渡辺 好子 様
岩崎 玲子 様	神崎 せちえ 様	鈴木 伸子 様	中富 晶子 様	益子 剛 様	高橋 和宏 様
岩瀬 松仁 様	菅野 歩里 様	鈴木 紀子 様	中野 愛美 様	増田 良一 様	土屋 あゆみ 様
岩間 未希子 様	菅野 恵子 様	鈴木 百合子 様	永橋 治子 様	増田 里香 様	
岩村 由美子 様	木内 尚子 様	角南 友佳子 様	永見 京子 様	松岡 信子 様	築野運輸株式会社 様
上岡 美保子 様	木倉 由佳梨 様	鷲見 八重子 様	中村 順子 様	松岡 里枝子 様	築野オレオケミカルズ株式会社 様
上田 明子 様	北上 由香 様	住友 由美子 様	中村 孝子 様	松家 由岐子 様	築野グループ株式会社 様
植田 峰子 様	北川 圭子 様	スモラー 薫 様	仲谷 玲子 様	松里 房子 様	築野食品工業株式会社 様
内田 愛優菜 様	木ノ内 礼奈 様	関 麻由美 様	中山 宏子 様	松茂 公彦 様	築野ライフインケミカルズ株式会社 様
内田 早紀 様	木下 学 様	関口 佳奈子 様	鳴坂 孝恵 様	松本 貴和子 様	株式会社野崎造園 様
内田 通子 様	久保 光 様	関野 裕子 様	新倉 朗子 様	松本 津奈子 様	1974年卒業50周年同期会 様
内山 ゆう子 様				円 より子 様	匿名 99名

サポート＜津田スピリット＞募金 新型コロナウイルス感染拡大に伴う 緊急募金として

水谷 正大 様 匿名 1名

サポート＜津田スピリット＞募金

●学修環境整備(小平キャンパス)
星 眞維美 様
匿名 2名

●学生支援(学外学修・海外活動)

匿名 1名

●教育振興資金

匿名 4名

●その他

和田 圭子 様 吉田 明子 様
一般社団法人津田塾大学同窓会 様
匿名 4名

『広報ふかや』の新春鼎談2025

「新紙幣肖像の3偉人 3人の精神を次世代へつなぐ」に学長が参加しました

高橋学長が2024年11月22日に深谷市を訪問し、『広報ふかや』の鼎談企画に参加しました。新一万円札の肖像 渋沢栄一翁の生誕の地である深谷市の市長が、津田塾大学学長および北里研究所理事長から話を伺い、それぞれの大学における創設者から引き継がれる精神や、現代を生きる私たちが3人の偉人から学ぶべき『人づくり』のポイントなどについて語っていただく、という企画でした。

鼎談に先立ち訪れた、「中の家（なかんち）」という渋沢翁が23歳まで過ごした邸宅では、その生涯について、3つのテーマから関係映像と共に、渋沢翁のアンドロイドが説明をしてくれました。

次に「渋沢栄一記念館」を訪問し、渋沢翁ゆかりの遺墨や写真など多くの資料を拝見しました。

鼎談会場である「誠之堂」は、渋沢翁の喜寿を祝って第一銀行の行員たちの出資により建築されたもので、1999年（平成11年）に東京都世田谷区から深谷市に移築されました。建築史上貴重な建物であるということで、国の重要文化財に指定されています。

小島進深谷市長と浅利靖北里研究所理事長、本学高橋裕子学長による鼎談は、参加者それぞれの人柄がわかるエピソードを披露していただく、というご要望もあり、「日常生活」「好きな食べ物」など多岐にわたる質問がされ、それぞれ具体的な話がエピソードとともに紹介されました。

鼎談後は深谷市長のご厚意で郷土料理の煮ぼうとうが振る舞われ、「深谷市の酒で乾杯を推進する条例」があること、ブロッコリーの作

付面積や産出額が日本であることなど、深谷市にまつわるさまざまなことを教えていただきました。

新紙幣の肖像となった3偉人のご縁により、またあらたな広がりと感じる一日となりました。



鼎談会場「誠之堂」にて、右より浅利理事長、小島市長、高橋学長



渋沢翁が23歳まで過ごした邸宅「中の家（なかんち）」にて、渋沢翁のアンドロイドと

本学の高大連携協定校で学長が講演を行いました

本学高橋裕子学長が、「高い教育を求めるといふこと」というテーマで、本学の高大連携協定校である白梅学園高等学校と捜真女学校高等学部のそれぞれで、1年生から3年生を対象に講演を行いました。

● 2024年10月19日 白梅学園高等学校（校長：武内彰／東京都小平市）

本講演会は、「SFP_22世紀しらうめフロンティアプロジェクト」という、白梅学園高等学校の生徒が、学年やコース、クラスも問わず、本講演会のテーマに関心をもった生徒が自由に参加できる学習会の一環として開催されました。

90分間の講演で高橋学長は、長い視野で自分のキャリアパスを考えること、大学院に進学する、そして留学することも視野に入れ、自分にフィットした進路選択をしてほしいと伝えました。

講演会終了後も多くの生徒が取り囲み、積極的に質問をするなど、とても活発な会となりました。



● 2024年11月18日 捜真女学校高等学部（学校長：島名恭子／神奈川県横浜市）

本講演で高橋学長は、2度の留学を経験し、帰国後は女性の高等教育に生涯を捧げた津田梅子の人生を紹介しながら、「高い教育を求めるといふことでさまざまな可能性が広がる」ことを強調しました。

また、日本の修士号・博士号取得者数が諸外国と比較して低い点や、日本の研究者に占める女性の割合が、OECD諸国の中で群を抜いて低い点についてグラフを用いて説明し、大学受験を一つの通過点ととらえ、大学院への進学や留学を視野に入れ、進路選択の幅を広げてほしいというメッセージを伝えました。

当日は多くの生徒や教職員のみならず、保護者や同校出身の本学卒業生も参加し、講演会は大変盛況となりました。



第8回津田ヶ谷祭が開催されました（学生報告）

第8回津田ヶ谷祭実行委員会

第8回津田ヶ谷祭を盛会のうちに、無事終了することができました。

今年度は「Move on!」というテーマのもと、誰かの背中をそっと押すことができるような津田ヶ谷祭を目指して委員一丸となり準備を進め、両日合わせて1,600人を超える来場者を迎えることができました。

秋晴れの下、梅公園は恒例となった緑日を楽しむ方や学生グループによるダンスや歌のパフォーマンスで大盛況となりました。また、昨年も大好評だった構内全てを使った謎解き企画は「学内を隈なくめぐることができて楽しかった」という嬉しいお声をたくさんいただきました。

さらに今年度は多数の新企画にも挑戦しました。俳優の渡邊美穂さんをお招きしたゲストトークショー企画やクラウドファンディングを利用した資金調達、梅公園での食品販売などによって、昨年とはひと味違う津田ヶ谷祭を実現することができました。仲間とともに困難や試練を乗り越える中で得た経験・自信を、これからの学生生活や社会での取り組みに生かしていきたいと考えています。

今後も津田ヶ谷祭を通して総合政策学部魅力をより多くの方々に広めるとともに、地域に密着した大学としてさらなる発展を目指し、一層尽力してまいります。本祭の開催にあたり多大なご支援をいただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。



2024年度第1・2ターム 授業に関するアンケート実施結果

2024年度第1・2タームの授業に関するアンケートを6・7月に実施しました。延べ20,755人の履修者数に対して回答者数は9,234人、回答率は44.5%でした。設問1～12、18～25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、ほとんどの設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13～15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問です。昨年度同時期から若干変化した項目は、1 シラバスは有用だったか、14 授業への取り組み、22 学修状況・理解度の把握、24 宿題・小テストの実施（いずれも0.06ポイント以上上昇）の4つです。

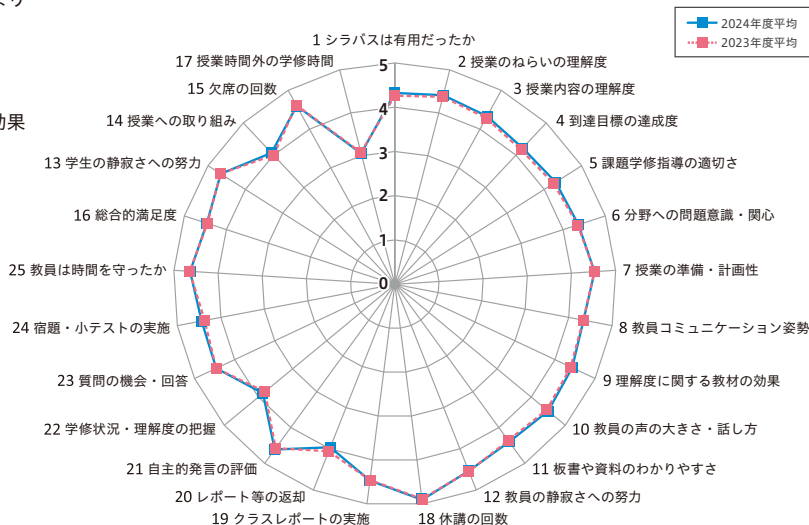
これら結果については各学科・関連委員会等で確認し、問題点の共有・検証・改善を行っており、その取り組み状況を全学教務委員会において確認しています。今後もアンケートを実施し、活用していきます。

授業に関する設問

- この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 課外学修の指導（参考文献の提示、文献の調べ方など）は適切でしたか。
- この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
- 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
- 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 教員は何回ぐらい休講（補講のないもの）をしましたか。
- 教員はクラスレポート（口頭発表）を課し、論評していますか。
- 教員はレポート等の返却（またはその告知）をしていますか。
- 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
 - この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
 - この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
 - この授業に関して、授業時間外で学修に当たった時間は毎週どれくらいでしたか。
- ※ 文献調査・資料収集を行った時間も含む



※ 設問別 回答内容

問1～14、19～25 [5]: 大いにそう思う [4]: そう思う [3]: どちらともいえない

[2]: あまりそう思わない [1]: そう思わない

問15 (欠席回数) [5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上

問16 (総合満足度) [5]: 満足 [4]: やや満足 [3]: ふつう [2]: やや不満 [1]: 不満

問17 (授業外学修時間 (週))

[5]: 3時間以上 [4]: 1-3時間 [3]: 30分-1時間

[2]: 30分未満 [1]: ほとんど行かなかった

問18 (休講回数) [5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上

小平、千駄ヶ谷の両キャンパスでイルミネーション点灯式が開催されました

2024年12月2日の5時限目終了後、小平キャンパス・千駄ヶ谷キャンパスの両キャンパスにおいて、イルミネーション点灯式を開催しました。小平キャンパスではこの時期の風物詩として、また千駄ヶ谷キャンパスでは初めてイルミネーションの点灯となりましたが、当日の点灯式には多くの学生や教職員が集まりました。

参加者が見守る中、イルミネーションが鮮やかに点灯した瞬間にはキャンパス内が温かい光に包まれ、歓声が上がりました。小平キャンパスでは、キッチンカーにてホットチョコレートの無料配布を実施し、千駄ヶ谷キャンパスでは、本学の連携協定先である千駄ヶ谷大通り商店街振興組合やS-SAP（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー）協定で関わりのある「and C」様にホットレモネード等をご準備いただき、無料配付を実施しました。

両キャンパスともに、ホットドリンク等の無料配布時に長蛇の列が出来たため、待ち時間も長くなってしまいましたが、いつか学生時代を振り返る際に、友達と一緒に寒中並んだ点灯式のことを、思い出していただければよいと思います。ご協力をいただいた皆さま、どうもありがとうございました。



小平キャンパスにて



千駄ヶ谷キャンパスにて

2024年度クリスマス礼拝 要約「悲しみには喜びを 憂いには賛美を」

イザヤ書 61章1～3節（口語訳）

奨励者：工藤 篤子氏（伝道師、工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ代表）

「神の恵みがこの世に現れた。諸人よ、喜びたえよ」と賛美してクリスマスを迎えます。イエス・キリストがこの世にお生まれになったという良き知らせ、良き音信（おとずれ）に感謝して賛美します。私たちが罪の重荷、そして死の恐怖から救い出してくださることに歓喜して私たちは救い主イエス・キリストの御降誕を祝います。神は私たちが神の子供となるように、一人ひとりを愛して大切にされます。私は十字架で私の身代わりになってくださったイエス様のために生きていこうと決心しました。アッシジのフランチェスコの「平和の祈り」—主よ、私を平和の道具としてください。憎しみには愛を、争いには赦しを、……暗闇には光を、悲しみには喜びを運ぶ者としてください。— 私はこの祈りを生きていこうと思いました。ドイツの神学者ボンヘッファーはヒトラーの絞首刑で命を落とす前に収容所から婚約者と家族にあてたクリスマスカードに、夜も朝もいつも共にいてくださる神様のよき力に囲まれて、私たちはなすべきことをなして、来るべき朝を待とうと書き送りました。イエス・キリストを知る人も知らない人もこのよき力に守られて、共に進んでいこうではありませんか。



理事会・評議員会開催報告

第335回理事会 2024年9月27日

【審議事項】

1. 2024年度補正予算(案)に関する件
2. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況に関する件
3. 寄附行為変更に関する件

【報告事項】

1. 私立学校法改正に伴う内部統制システムの整備について
2. 大学・高専成長分野転換支援基金助成金(支援1)の交付決定及び新学部設置準備室での活動状況について
3. ウェルネス棟(仮称)の進捗報告について
4. 新2号館建設の発注方法について
5. ウェルネス教育セミナーハウスについて
6. 非常勤職員就業規則案について
7. その他

第205回評議員会 2024年10月24日

【審議事項】

1. 寄附行為変更案の修正に関する件

【諮問事項】

1. 2024年度補正予算(案)に関する件

【報告事項】

1. 令和6年度大学・高専機能強化支援事業の選定結果及び交付決定について
2. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況について
3. 津田梅子記念会&ホームカミングデーについて
4. 創立125周年記念事業募金について
5. 2023年度卒業生の進路について
6. 2024年度入試志願者状況と入学人数について
7. その他

第336回理事会 2024年10月24日

【審議事項】

1. 2024年度補正予算(案)に関する件
2. 第2号基本金の組入に係る計画表の変更に関する件
3. 内部統制システム整備の基本方針(案)の制定に関する件
4. 創立125周年記念事業募金趣意書に関する件

【協議事項】

1. 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく本学の公的研究費管理の現状について

【報告事項】

1. 創立120周年事業募金の報告について
2. 津田梅子記念会&ホームカミングデーについて
3. 新学部設置準備室での活動状況について
4. その他

第337回理事会 2024年11月29日

【審議事項】

1. 内部統制システム整備の基本方針(案)の制定に関する件

2. 創立125周年記念事業募金趣意書に関する件

【協議事項】

1. 私学法改正の求めるガバナンス強化に関する件

【報告事項】

1. 創立120周年記念事業募金御礼(案)について
2. 寮建設における仕様書と業者選定について
3. その他

第338回理事会 2024年12月20日

【審議事項】

1. 新2号館設計業者選定に関する件

2. 非常勤講師契約不更新訴訟に関する件

【報告事項】

1. 2024年度事業計画に係る中間報告について
2. 2024年度収支見込みについて
3. 私立学校法改正に伴う会議日程案について
4. 新学部設置に関しての検討の進捗について
5. その他

「クリスマスコンサート2024」が開催されました

2024年12月18日に、「クリスマスコンサート2024」が開催されました。

今年は本学同窓生の長谷川彩乃氏（ソプラノ歌手）をお迎えして、ピアノ演奏には仲田淳也氏、ゲストとしてクラリネットに久松響子氏と参加される予定でしたが、長谷川氏の体調不良により、急遽代役としてソプラノに原田静香氏をお迎えいたしました。

今年も昨年に引き続き、定員をはるかに上回る多くのお申し込みをいただき抽選となりました。

ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。



ご挨拶 2025年3月31日付で定年退職を迎える教職員よりご挨拶申し上げます

多文化・国際関係学科教授

三澤 健宏



メキシコ滞在14年の後1997年に帰国し、ラテンアメリカ研究の担当教員として、国際関係学科に赴任することになったのは、人生の大きな転機でした。印象に残っているのは、国際関係とは何かを理解するために、初年度から参加した研究科の総合ゼミでした。質問によって研究者の在り方が問われ、緊張感を伴う、しかしながら開かれた議論の場でした。研究科の発展に尽力した先生方からは、自分も多くのことを学ぶことができたと思っています（実は、初年度から指導する修士1年生がいることになっていました）。学部生や院生の研究に対して、少しでも手助けできたとしたら、総合ゼミでの経験が役に立っていると思っています。また、学科事務室と各委員会の運営、そして教育支援に携わる職員・事務方の存在があるからこそ、今日まで教員として続けてこれたと思っています。これから世代交代を伴う多文化・国際協力学科の同僚に対してとともに、心から感謝いたします。



最終講義での三澤ゼミ生からの花束贈呈

情報サービス課メディア・サービス室（図書館）

吉田 誠

地下鉄半蔵門駅から皇居方面英国大使館のとおりにあるレストラン（洋菓子屋さん）の壁に"Tsuda College Founded Here 1900"という銘文がありました。総務課にいたときに設置されたものですが、現在はTsuda Universityバージョンになっています。近くには千鳥ヶ淵や靖国神社があり桜の季節の散策によいところですよ。

女子英学塾開校式は1900年9月14日ですが、私は1989年本学に就職しました。当初は総務課に配属され、通常の業務以外では、損害保険代理店なんかもやってました。

次の管理課ではちょうど100周年にあたって、素人ながら建築に関する記念事業全般にかかわることができました。

図書館では閲覧業務をととして学生や教員の皆さんのお役に立てたのではないかと自負しております。

さすがに35年も勤務しているといろいろな経験ができました。2025年は創立125周年になりますが、これからも「真の教育は、生徒の個性に従って」行われる大学であってください。



受賞おめでとうございます。

●2024 IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE2024)「IEEE GCCE 2024 Presentation Awards」受賞

総合政策学部 総合政策学科 4年 武藤 胡桃

Kurumi Muto and Akihisa Kodate (Tsuda University, Japan); "Travelers' Dissatisfaction in Tokyo's Short-Term Rentals: Factors Influencing Location Reviews"

理学研究科情報科学専攻修士課程 2年 森谷 美羽

Miu Moritani and Kazutaka Kurihara (Tsuda University, Japan); "Development of an Automated Eye Drop System Using Games"

理学研究科情報科学専攻修士課程 2年 丸山 礼華

Ayaka Maruyama and Kazutaka Kurihara (Tsuda University, Japan); "Discussion on the Connection of Different Games Sharing Goal Awareness and Physical Actions"

Ayaka Maruyama and Kazutaka Kurihara (Tsuda University, Japan); "Development of VR Kyogi Karuta Game System"

(いずれも学年は発表当時のもの)

<https://www.tsuda.ac.jp/news/2024/1202.html>



●一般社団法人MA主催「ヒーローズ・リーグ2024」各賞受賞

理学研究科情報科学専攻修士課程 2年 丸山 礼華
オレトク賞:

音のARを用いた究極のイントロクイズ「アタック・ドン」

情報科学科 4年 木戸 彩乃、三和 菜月

XMAKERS賞:

visuax 〜サクソフオーン初心者を対象としたロングトーン練習支援システム〜

情報科学科 4年 吉岡 利恵

toioとM5StackやxModによるインパクトある作品で賞: Techバーチャル万華鏡

<https://www.tsuda.ac.jp/news/2024/1227.html>





お知らせ

交流館プログラム

翻訳を体験しよう

- 日 時：5月17日、5月31日、6月14日、6月28日、7月12日
隔週土曜日 全5回 13:00～15:00
- 講 師：柳田 利枝（本学非常勤講師）
- 定 員：20人
- 受講料：10,000円（在学生5,000円）

《大人のための英語講座》多読のすすめ

- 日 時：5月27日、6月3日、6月10日、6月17日、6月24日
火曜日 全5回 10:30～12:30
- 講 師：石黒 真理子（本学非常勤講師）
- 定 員：16人
- 受講料：10,000円（在学生5,000円）

浮世絵からお江戸の謎解き

- 日 時：5月22日、6月5日 木曜日 2回 11:00～12:30
- 講 師：牧野 健太郎氏
（日本ユネスコ協会連盟 個人会員、東横イン 顧問）
- 定 員：28人
- 受講料：各回2,000円（在学生各回1,000円）

アルバム別 ビートルズ名曲の秘密を徹底解剖

- 日 時：5月19日、6月2日、6月16日、6月30日、7月14日
隔週月曜日 全5回 11:00～12:30
- 講 師：池田 澄人氏（音楽・オーディオビジュアル評論家）
- 定 員：20人
- 受講料：10,000円（在学生5,000円）

翻訳講座 英語圏の児童文学

- 日 時：5月21日、6月4日、6月18日、7月2日、7月16日
隔週水曜日 全5回 10:00～11:30
- 講 師：前沢 明枝氏（翻訳家）
- 定 員：12人
- 受講料：10,000円（在学生5,000円）

モダン・ジャズの名盤を聴く！

- 日 時：6月25日、7月9日 水曜日 全2回 11:00～12:30
- 講 師：椿 清文（本学名誉教授）
- 定 員：20人
- 受講料：10,000円（在学生5,000円）

詳細は下記Webサイトをご参照ください。

<https://koryukan.tsuda.ac.jp>

- お申込み・お問い合わせ：津田梅子記念交流館（経営企画課） Tel. 042-342-5146
- 場 所：小平キャンパス 津田梅子記念交流館

公開講座（総合、女性学）

総合2025

現代のさまざまな問題を取り上げ、学生が主体となり教員と協力して運営に当たる「総合」。

2025年度は『気づきの先はいつも晴れ ～心にかかる霧を晴らそう～』をテーマに、各回でご活躍の方々にご講演いただきます。

- 講 師：公演予定者については、本学Webサイトをご参照ください。
- 日 時：授業期間中の毎週木曜日3時限目（13:00～14:30）
- お申込み：不要。本学正門守衛所にて、住所・氏名等をご記入ください。
- 参加費：無料。18歳以上であれば、どなたでも参加できます。

女性学

- 講 師：【第1ターム】
吉朝 加奈氏（東邦大学准教授）
【第3・第4ターム】
大橋 稔氏（城西大学教授）
- 日 時：【第1ターム】
毎週金曜日2時限目（10:30～12:00）
【第3・第4ターム】
毎週月曜日4時限目（14:40～16:10）
- お申込み：本学Webサイトより申請を行ってください。
- 参加費：無料。18歳以上であれば、どなたでも参加できます。
- 受付期間：2025年3月10日（月）～4月7日（月）

●お問い合わせ：教務課 Tel. 042-342-5130

●場 所：小平キャンパス

2025年度オープンキャンパス

詳細は各開催日の1ヶ月前頃に本学Webサイトで公開します。

- 小平キャンパス（学芸学部）
2025年6月15日（日）、7月13日（日）、8月9日（土）
2026年3月21日（土）
- 千駄ヶ谷キャンパス
2025年7月6日（日）、8月3日（日）
2026年3月15日（日）

津田塾1日体験 day

9月15日（月・祝） ※事前予約制

高校生、既卒生を対象に、小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパスにて、平常授業の公開等、津田塾を体験できるイベントを予定しています。詳細は本学公式Webサイトでお知らせします。

● 表紙への想い ●

春のラーニングコモンズ（千駄ヶ谷キャンパス）

CHIKU

千駄ヶ谷キャンパス1階にあるラーニングコモンズは、広い窓に面した学生たちの憩いの場所です。春のシーズンに窓から見える満開の桜や新緑とともに、ゆったりとした館内の風景を制作しました。



125th Anniversary
1900-2025
2025年、津田塾大学は
創立125周年を迎えました

Tsuda Today No.133 発行日 ● 2025年3月31日 発行 ● 津田塾大学

編集 ● 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>

表紙切り絵 ● CHIKU（種村千明・2000年卒）